【記入例及び記入様式】

【別紙様式２】

令和５年度　県立北茨城特別支援学校　自己評価表

№. 1

目指す学校像	◆児童生徒・教職員が笑顔あふれ、安心安全に学べる学校 ◆児童生徒一人一人に応じた自己有用感・自己肯定感を育める学校 ◆保護者・地域から信頼され、地域の特別支援教育の発展に貢献できる学校

昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　　点　　目　　標	達成状況
・本校オリジナル「主体的・対話的で深い学び」の「授業づくりシート」を作成できたが、学校全体での一層の理解と推進が必要 ・「あいさつ」の全校取組が定着してきた。「清掃」に関する全校での取組、職場体験等の学校全体・系統的取組を構築していくことが必要 ・地震・津波の避難訓練では、迅速な校外避難を目的として１次避難場所を工夫できた一方、保護者引き渡し場所にあたる２次避難場所について要検討	１　学力の育成	①　「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開 ②　児童生徒の実態に応じた、コミュニケーション支援等の生活ツールとしての ICT 活用 ③　「あいさつ」「清掃」及び職場体験・現場実習の学校全体・系統的取り組み	A
	２　安心安全	④　安心して学べる環境づくり（居場所づくり等） ⑤　外部機関・ＰＴＡ等と連携した家庭支援の推進 ⑥　医療的ケアの安全な実施 ⑦　地震後の津波を想定した安心安全な新経路での避難訓練	A
	３　交流及び共同学習	⑧　共生社会実現のためのコミュニティ・スクールの導入準備と地域交流の推進 ⑨　相互理解のための居住地校交流における「合理的配慮個人支援シート」の活用 ⑩　児童生徒の作品等をとおした間接交流の充実 ⑪　各部間・地域交流を重視した「きたとく祭」（文化祭）の実施	A
	４　総合支援	⑫　「みんなで地域支援」をコンセプトにした学校全体による支援体制の整備 ⑬　スピーティーな情報共有を重視した校内支援 ⑭　「みんなで地域支援」をコンセプトにした教職員研修	A
	５　高い専門性	⑮　「学び続ける教師」を目指す外部講師による研修会（個別最適化と ICT、コグトレ等）の充実 ⑯　教職員による相互研修（ICT 活用等）の実施 ⑰　教職員が福祉サービスを学び、関係機関との連携強化の機会とする福祉合同説明会の実施	A

評価項目	具体的目標	具　体　的　方　策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・児童生徒による授業評価Ａ（よく分かる）・Ｂ（大体分かる）90%超	・令和４年版「子供・若者白書」（内閣府）について職員会議で説明し教職員に周知。（子供・若者の「居場所の数」及び「相談できる人がいる場の数」と「自己認識の前向きさ」が相関）「居場所づくり・絆づくり」の拠点となるための、学ぶ楽しさがある「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり及び授業改善を実践する。	①②③④ ⑤⑦	A		○10 月実施の児童生徒による授業評価結果 →91%（89/98 名）がＡ(よく分かる)・Ｂ(大体わかる) ○１月実施の教員による「主体的・対話的で深い学び」の理解度アンケート結果 →100%の教員が理解 ●児童生徒による授業評価と教員の授業改善とのリンク ◇特定時期ではなく単元終了後の児童生徒による授業評価

	・地震・津波の避難訓練年３回（４月・６月・３月）、新経路での校外避難訓練年１回（11 月）	・昨年度からの避難経路の変更について、経緯・理由等について教職員・児童生徒に説明し、周知徹底を図る。１次避難場所（学校近隣）及び２次避難場所（高萩清松高校、保護者引き渡し場所）への避難訓練を 11 月に実施する。実施後は「学校防災連絡会議」を開催し、新避難経路及び避難方法について検証する。				○地震・津波の避難訓練 →年３回（４月、６月、３月予定） →新経路での大規模避難訓練 →11 月 27 日（月）に実施 ●新避難経路のアップデート ◇保護者・地域住民との一層の連携
教職員の育成及び指導・監督	・校務分掌部長等から提案され､学校グランドデザインに組み入れた｢今年度の努力事項」の実施 100% ・若手教員及び今年度異動して来た教員との面談年２回	・校務分掌部長等が学校経営に主体的・対話的に関わることが、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりにつながると考える。４月に個別に面談し、「昨年度の課題・今年度の取組」について聴取し、学校グランドデザインの「今年度の努力事項」に組み入れる。２月に再度面談し、実施結果と評価を行う。 ・教職員の精神疾患による病気休職者の傾向として、採用後間もない教員と異動後まもない教員に多い。若手教員（初任者・２年次・３年次）及び今年度異動して来た教員との面談を年２回（７・８月、12 月）実施し、業務や私生活に関する悩みについて一緒に解決していく。	①④⑯	A		○校務分掌部長等から提案された、学校グランドデザイン「今年度の努力事項」 →100％実施 ●「今年度の努力事項」の難易度に応じた進捗状況の確認 ◇教員との対話の継続 ○若手教員及び今年度異動者との面談 →年２回実施（７月・１月） ○心因性の療休者０名 ●校長からの一層積極的な声かけ・立ち話 ◇起案文書への校長からの感想・感謝等の記載など一人一人の教職員を人財と考えることの継続
対外活動	・コミュニティ・スクール導入（R6～）準備に係る地域交流３回以上 ・新聞社等メディアへの情報提供 10 回以上	・コミュニティ・スクールを「学校づくり、まちづくり」ととらえ、障害の有無に関係なく全ての人が暮らしやすい「共生社会の実現」の観点から推進していく。そのためには、地元行政の「芸術によるまちづくり」との協働が大切だと考える。導入準備の今年度は、地域の芸術家とコラボした地域交流を行い、学校の応援者を増やしていく。 ・「共生社会の実現」のためには、特別支援学校の取組を広く県民に広めていく必要がある。新聞社等の記者と良好な人間関係を構築し、積極的に教育活動の情報提供を行い取材・新聞掲載等につなげていく。	⑧⑩⑪	A		○コミュニティ・スクール導入準備 →地域の芸術家とのコラボによる地域交流４回実施 →本校が目指すコミュニティ・スクールのミッションとビジョンの明確化 ●芸術をとおした地域交流から「まちづくり」「共生社会」への展開 ◇R6 からの学校運営協議会の活発化 ○新聞掲載９回、ＮＨＫ３回放映 ●社会情勢を見据えた学校行事の企画 ◇記者との良好な人間関係の構築

※評価基準：　A：十分達成できている　B：達成できている　C：概ね達成できている　D：不十分である　E：できていない